



胃内視鏡検査による胃がん検診

市でも1月から開始

近年、日本人の胃がんは減っていると言われています。確かに胃がん死亡率は年々減少していますが、胃がんの罹患数は高齢化とともに増加しています。

では、なぜ胃がんの死亡率は減少し始めているのでしょうか。それは、胃がんになる人は増えてはいるものの、完治する人が多く、死亡数は増加していないからです。そしてその理由は、胃がんの早期発見・早期治療が進歩しているからなのです。

これまで胃がん検診は胃部エックス線検査が中心でした。しかし近年、国内外の臨床研究で、胃内視鏡検査は胃がんによる死亡率を減少させる効果があると明らかになったため、50歳以上を対象にした胃がん検診で胃部エックス線に加え、胃内視鏡検査が推奨されるようになりました。

それ以降、徐々に胃がん検

診で胃内視鏡検査が行われる地域が増えてきました。本市でも1月から胃部エックス線検査に加えて、胃内視鏡検査による胃がん検診が開始されました。対象者は満50歳以上の吹田市民で、2年に1回、偶数年齢に受診できます(胃部エックス線検査は年に1回受診できますが、胃内視鏡検査を受けた翌年は受診できません)。

胃内視鏡検査は、胃部エックス線検査で発見が困難な小さな病変も見つけることが可能です。苦しい検査だと抵抗があるかもしれませんが、内視鏡検査も進歩しており、基本的には5〜10分程度で終了します。

胃内視鏡検査を受けて、早期発見・早期治療をめざしましょう。

吹田市医師会 天野 一郎